

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式 全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加) 昨年と同じく、大問5題・小問40問。

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**) 「難」の問題が出題され、昨年度よりも難化した。

出題の特徴や昨年との変更点

地域：欧米史2題、アジア史3題。昨年度と同様に、アジア史の割合が高かった。

時代：一応は古代から現代まで出題されたが、現代史の出題は少なかった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク空所 マーク正誤	ヘレニズム文化	テーマは文化史であるが、設問の多くは政治史の出題。誤文を選ぶが正誤問題では、正誤判断に迷う短文が含まれているが、解答となる短文の正誤判定は標準的。	やや易
II	マーク空所 マーク正誤	独立から王国成立までのオランダ史	オラニエ家の首長の動向を中心に、18世紀の王国成立までを扱う。同時期のヨーロッパ史も出題。ハプスブルク家出身の王に関する①は、フェリペ5世がブルボン家出身であることに気づくと正解できる。	標準
III	マーク空所 マーク正誤 マーク設問	匈奴からウイグルまでの騎馬遊牧民	ウイグル王国の滅亡までのモンゴル高原を支配した遊牧国家の興亡を扱う。古代朝鮮史の③は、帯方郡の成立時期の把握が求められている。突厥に関する④は、正誤判定に迷う短文が多いが、リード文から突厥が5世紀以降に台頭したことに気づけば、正解選択が可能となる。	標準
IV	マーク空所 マーク正誤	スレイマン1世までのオスマン帝国史	オスマン帝国の発展を扱う。初期のオスマン帝国に関する①は、初期の軍隊が「キリスト教徒の騎士から組織」や、「アナトリア西部のブルサを拠点」などの短文の正誤判定に迷う。スレイマン1世に関する⑥も、正解の「モロッコを属領とした。」の正誤判断が難しい。	やや難
V	マーク空所 マーク正誤	フランスのベトナム進出とホーチミンまでの対仏民族運動	阮朝成立からホーチミンらの活動までを扱う。シヤム(タイ)に関する①、カンボジアに関する③、ラオスに関する④、ファン=ボイ=チャウに関する⑤は、正誤判定に迷う短文が多く、いずれも難問。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本学の入試問題は、様々な地域・時代から幅広く出題されるので、苦手な分野をなくすことが重要。短文正誤問題の割合が高いので、用語だけを覚えるのではなく、誰が・いつ・どこで・何を・どうしたのか念頭に置いて学習して欲しい。正誤問題の全てが誤文選択であり、正誤判断に迷う短文が多いが、解答となる短文の誤りがはっきりしているものが多いので、教科書に記載されたことがらを確実に頭に入れることが第一である。また、同じようなテーマが繰り返し出題されることが多いので、過去の問題の学習を徹底したい。